

第 156 回琉球医学会例会プログラム

(平成 24 年 10 月 16 日(火), 17:15~, 於 臨床講義棟 1 階 101 号室)

I 一般講演

17:15-17:30

座長：當間孝子

1. 琉球列島 5 島で採集された蚊の吸血源動物の同定とその吸血習性について

琉球大学保健学科 基礎看護学講座 国際環境保健学分野

○玉城美加子、當間孝子、万年耕輔、宮城一郎

17:32-17:47

座長：片桐千秋

2. 象牙芽細胞に高発現する TRPM7 の機能解析

琉球大学大学院医学研究科 分子・細胞生理学講座

○圓谷智之

17:49-18:04

座長：木村亮介

3. 性ホルモン作用の指標としての 2D:4D 比を再考する

琉球大学大学院医学研究科 人体解剖学講座 (修士課程 2 年)

○米須学美、川口亮、佐藤丈寛、石田肇 (琉球大・医)、
山口今日子、渡邊千晶、木村亮介 (琉球大・超域機構)

18:06-18:21

座長：益崎裕章

4. 高脂肪食に対する好みを決める新しい脳内メカニズム
～玄米成分による糖尿病・肥満予防の可能性～

琉球大学大学院医学研究科内分泌代謝・血液・膠原病内科学講座

○小塚智沙代

高脂肪食に対する好みを決める新しい脳内メカニズム
～玄米成分による糖尿病・肥満予防の可能性～

小塚智沙代

琉球大学大学院医学研究科
内分泌代謝・血液・膠原病内科学講座(第二内科)

抄録：

玄米が有する抗肥満・糖尿病予防効果が注目されているが、詳細な分子メカニズムは明らかでない。私たちは米ぬかに高濃度に含まれる γ -オリザノール(Orz)に注目し、マウスを用いて玄米による抗肥満効果、糖代謝改善効果のメカニズムを探索した。マウスに通常食(CD)と高脂肪食(HFD)を給餌し、自由に選択させると圧倒的にHFDを好み、肥満する。選択させるCDとHFDのそれぞれに玄米を混合して選択させると、このような”HFDに対する嗜好性”は明らかに低下し、体重増加が抑制された。このメカニズムとして、玄米が視床下部における小胞体(ER)ストレスの亢進を抑制していることを見出した。HFD給餌マウスへOrzを投与したところ、玄米と同様の効果が得られた。以上の結果から、玄米及びOrzが視床下部ERストレスの抑制を介した”HFDに対する嗜好性”の低下によって抗糖尿病・抗肥満効果を発揮することが新規に解明された。